NIE実践報告

1．タイトル：**ふるさとの「よさ」を記事にしよう！**

2．学校名

和歌山県紀の川市立打田中学校

3．実践者名（代表者名）

今田一里

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

選択社会　40人

6．単元（本時の学習課題）名

ふるさとの「よさ」を記事にしよう

7．目標(狙い)

社会の多様な価値観を自分の中へ取り込み、発信することをねらいとして、子ども自身が暮らしている地域の「よさ」の記事を書く。

8．評価の視点

日頃、見過ごしている地域の「よさ」を発見し、そのことがらを新聞記事として的確に表現することが出来たか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

新聞の読み方について（7時間）
ふるさとの「よさ」を記事にしよう（8時間）　合計15時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①情報社会の現状及び新聞の有効性について知るとともに、学習全体のねらいを持つ。（1時間）
②新聞の読み方について知る。（1時間）
③読み手にわかりやすい文章を書く。（1時間）
④4コマ漫画から伝えたい内容を考える。（1時間）
⑤新聞を読み込もう。（2時間）
⑥ふるさとの「よさ」を表していることがらを探し、それを記事にする。（7時間）
⑦発表を通じて、ふるさとを再発見し、共有する（2時間）
（留意点）
- **子どもたちが興味を持つ新聞記事を教材として使用する。**
- **地域の「よさ」について、リード文、本文を書くことにより、自分が伝えたい内容を整理するとともに記事としての体裁を整える。**
- **人の目を引く「見出し」を工夫させる。**

11．児童・生徒の反応、感想・意見

これまでの受動的な学習とは違い、苦労しながらも自分の頭で考え、表現することを通して、新聞の読み方が変わったり、今後のNIEの学習に意欲を持つ子ども、自分の将来や自分自身見つめている子どもの様子、そして、何よりも楽しく学習に取り組む様子を伺うことができた。

12．成果と課題

今回のNIEの取り組みは「子どもたちが主体的に学ぶ」という学習の一つのきっかけになったように思われる。しかし、“ナマの新聞”を教材として使用することから、次年度も同じ教材で学習が出来ない。このことから、学習の系統化という面で立ち止まってしまう。しかし、“ナマの新聞”を使用するからこそ、子どもたちが興味を持ち、エンパワーメント（主体的形成力量）する指向を推し進めるものであると考える。NIEの学習が「疲労感を持った形づくり」に終始してしまわないためにも、NIEの学習についての「ねらい」や「意義」を明確に見出す必要がある。